

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
論理国語	普通科 A 類型・3 年	1	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書『論理国語』（大修館書店） <input type="checkbox"/> 『論理国語 学習ノート』（大修館書店） <input type="checkbox"/> 『評論・小説を読むための 新現代文単語 改訂版』（いいずな書店） <input type="checkbox"/> 『クリアカラー国語便覧』（数研出版） <input type="checkbox"/> 『五訂版 常用漢字オールクリア』（尚文出版） <input type="checkbox"/> 『三訂版 ほんものの力がつく 現代語練習帳 ことのは』（いいずな書店） <input type="checkbox"/> 現代文問題集
------	---

科目の目標		
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>実社会に必要な国語の知識や技能を I C T や辞書、補助教材を用いて身に付けるようにする。</p>	<p>協働的かつ対話的な活動をと おして、論理的・批判的に考 える力を伸ばすとともに、創造 的に考える力を養い、他者との関 わりの中で伝え合う力を高め、 自分の思いや考えを広げたり 深めたりすることができるよ うにする。</p>	<p>言葉がもつ価値への認識を深 めるとともに、生涯にわたって 読書に親しみ自己を向上させ、 我が国の言語文化の担い手と しての自覚を深め、言葉を通し て他者や社会に関わろうとす る態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

30%	50%	20%
-----	-----	-----

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>〔知識・技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文や文章を効果的に組み立てたり接続したりするしかたについて理解できている。 ・筆者の主張とその前提や反証などについて理解できている。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。 	<p>B 評価の規準</p> <p>〔思考・判断・表現〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。 ・多面的、多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。 ・文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな視点から自分の考えを深めることができている。 	<p>B 評価の規準</p> <p>〔主体的に学習に取り組む態度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで筆者の主張とその根拠や論拠をとらえようとするとともに、内容に関して自らの考えをもち伝えようとしている。 ・学習課題に沿って、本文の内容や表現に注意しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。 ・従来の物事のとらえ方や考え方を改めて見つめ直すことに興味・関心をもとうとしている。 <p>※〔主体的に学習に取り組む態度〕は、課題（提出状況及び取組内容）、言語活動時の自己評価等で評価します。</p>
<p>※〔知識・技能〕と〔思考・判断・表現〕は、定期考査及び単元ごとの小テスト、授業中の課題等で評価します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時 数	学習項目
4 5	「贈り物」としてのノブレス・オブ リージュ	4	語彙、表現
			自己と他者について
			自分の考えを述べる
6	記号的メディアと物理的メディア	5	語彙、表現
			コミュニケーション論
			対比
7 8	生物多様性の恩恵	5	語彙、表現
			環境論
			主張の整理
9	ポスト真実時代のジャーナリズムの 役割	5	語彙、表現
			メディア論
			データ・図表の活用
10	人を指す言葉 - 自称詞・対称詞・他 称詞	5	語彙、表現
			言語論
			主張の整理
11	政治を支える心構え	5	語彙、表現
			社会論
			自分の考えを述べる
12 1	日常に走る亀裂	5	語彙、表現
			自己について
			自分の考えを述べる

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
文学国語	普通科 A 類型・3 年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書『文学国語』（数研出版） <input type="checkbox"/> 『文学国語 準拠ワーク』（数研出版） <input type="checkbox"/> 『クリアカラー国語便覧』（数研出版） <input type="checkbox"/> 『評論・小説を読むための 新現代文単語 改訂版』（いいずな書店） <input type="checkbox"/> 現代文問題集
------	--

科目の目標		
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
30%	50%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 〔知識・技能〕 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。 ・本文を読み取ることを通して、読書の意義と効用についての理解をおおむね深めることができている。	B 評価の規準 〔思考・判断・表現〕 ・作品の構成と展開を踏まえ、表現がもたらす効果について、おおむね理解することができている。 ・作者の経歴と作品の成立背景を調べ、作者の心情をおおむね理解し、作品の解釈を深めることができている。 ・複数の文章を比較することで、それぞれの表現方法にはどのような違いがあるかをおおむね考察することができている。	B 評価の規準 〔主体的に学習に取り組む態度〕 ・学習課題を踏まえて粘り強く本文設定の考察に取り組んでいる。 ・学習課題を踏まえて話し合いや記述などの言語活動に粘り強く取り組んでいる。 ※〔主体的に学習に取り組む態度〕 は、課題（提出状況及び取組内容）、言語活動時の自己評価等で評価します。
※〔知識・技能〕と〔思考・判断・表現〕は、定期考査及び単元ごとの小テスト、授業中の課題等で評価します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4 5	クリーム	7	語句・表現
			心情の整理
			比喩表現
6 7	檸檬	8	語句・表現
			心情の整理
			比喩表現
8 9	赤い繭	7	語句・表現
			心情の整理
			解釈の多様性

10	野火	7	語句・表現
11			心情の整理
			状況の理解
12	ひよこの眼	8	語句・表現
1			心情の整理
			内容の解釈

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
古典探究	普通科 A 類型・3 年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書『古典探究』（数研出版） <input type="checkbox"/> 『古典探究 準拠ワーク』（数研出版） <input type="checkbox"/> 『古文・漢文を一緒に学ぶ 古典の手引き』（いいずな書店） <input type="checkbox"/> 『古文・漢文を一緒に学ぶ 古典の手引き 定着ノート』（いいずな書店） <input type="checkbox"/> 『クリアカラー国語便覧』（数研出版） <input type="checkbox"/> 『読んで見て覚える 重要古文単語 3 1 5 三訂版』（桐原書店） <input type="checkbox"/> 古典文法書 <input type="checkbox"/> 古典問題集
------	--

科目の目標		
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 0 %	4 0 %	2 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 〔知識・技能〕 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解できている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解できている。	B 評価の規準 〔思考・判断・表現〕 ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価できている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。 ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。	B 評価の規準 〔主体的に学習に取り組む態度〕 ・語句の意味を主体的に調べ、自らの語彙を増やそうとしている。 ・作品や作者について、時代背景も踏まえたうえで、粘り強く考察しようとしている。 ・学習課題について粘り強く取り組もうとしている。 ※〔主体的に学習に取り組む態度〕 は、課題（提出状況及び取組内容）、言語活動時の自己評価等で評価します。
※〔知識・技能〕と〔思考・判断・表現〕は、定期考査及び単元ごとの小テスト、授業中の課題等で評価します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	思想「老子」「莊子」「韓非子」	5	語句・修辞
			主張の理解
			各思想の特徴の理解

5	歴史物語『大鏡』「道真と時平」	6	語句・修辞
			登場人物の心情の理解
			関連作品との比較
6	逸話『呂子春秋』「知音」	3	語句・修辞
			故事成語
			内容をとらえる
7	随筆『枕草子』「宮に初めて参りたるころ」	4	語句・修辞
			登場人物の状況や心情の理解
			同ジャンルの作品との比較
8 9	小説『聊斎志異』「酒虫」	4	語句・修辞
			内容をとらえる
			自分の考えを述べる
10	日記文学『和泉式部日記』「薫る香に」	5	語句・修辞
			登場人物の状況や心情の理解
			和歌の解釈
11	史伝『史記』「壁を趙に帰さしむ」 「刎頸の交はり」	7	語句・修辞
			登場人物の心情の理解
			故事成語
12	評論『無名抄』「俊成自讃歌のこと」	5	語句・修辞
			主張の理解
			自分の考えを述べる
1	漢詩「鹿柴」「江南春」「黃鶴楼」	5	語句・修辞
			漢詩の解釈
			構成・展開をとらえる

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
地理探究	普通科 3 年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 地理探究（東京書籍） <input type="checkbox"/> 地図帳 新高等地図（東京書籍） <input type="checkbox"/> 資料集 新編フォトグラフィア地理図説 2024（とうほう）
------	---

科目の目標		
地理総合の学習で身につけた社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを地誌的に理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。また、現代世界の諸課題を地球的視野で捉え、その対策や持続的な社会の在り方について構想する力や、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論する力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通してかん養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めようとする。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 〔わかった、できた〕 ・世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するために、教師の説明や自分で理解したことを余白やノートにまとめている。	B 評価の規準 〔根拠をもって説明・表現できた〕 ・各単元の概念を踏まえて自然環境と人間生活との結びつきを主題図やグラフ、景観写真を基に、問に対して自分の考えをまとめることができる。 ・学習したことを基に課題解決に向けて考察し、友人同士で説明し合う中で自分事として捉え、新たな視点を獲得できている。	B 評価の規準 〔粘り強さ、学びに向かう調整力〕 ・授業プリントの考察場面で自分なりの理由や解決策を導こうとしている。 ・解決策を導くにあたって必要な資料や情報は何か、まとめ方はどうしたらよいか考え、工夫している。 ・単元テスト前や定期考査前に授業プリントを活用して学習した形跡が見られる。また、学習の振り返りから資料や情報の最適な活用方法を考え、問いの答えを導こうとしている。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、単元テスト、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	世界の地形	8	・地形をつくる力 ・プレート運動とさまざまな境界 ・変動帯の地形 ・安定地域の地形 ・河川がつくる地形 ・海岸と海にみられる地形 ・気候や地質の影響が強い地形 ・地震と津波
	気候と自然環境	4	・気候の見方 ・大気大循環と気候 ・海洋と陸水 ・世界の植生

5	気候と人々の生活	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ケッペンの気候区分 ・熱帯の特徴と人々の生活 ・乾燥帯の特徴と人々の生活 ・温帯の特徴と人々の生活(1)(2) ・亜寒帯(冷帯)・寒帯の特徴と人々の生活 ・高山気候の特徴と人々の生活 ・異常気象と気候変化
	日本の自然環境と自然災害	3	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の地形と自然災害 ・日本の気候と自然災害 ・自然災害と防災・減災の取り組み
	世界の環境問題	5	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の環境問題 ・地球温暖化の背景と影響 ・オゾンホール、大気汚染の背景と影響 ・森林破壊の背景と地域性 ・日本の環境問題
6	産業の発展と社会的分業	2	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の変遷 ・産業構造と地域構造
	農林水産業	6	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の立地と形態 ・世界のさまざまな農業地域 ・グローバル化と農業地域の変容 ・拡大する世界の農産物流通 ・世界の林業・水産業 ・日本の農林水産業
	食糧問題	3	<ul style="list-style-type: none"> ・食糧問題の背景と地域性 ・食糧問題の解決に向けて ・日本の食糧問題
	エネルギーと鉱産資源	2	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のエネルギー需要 ・化石燃料
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・電力生産 ・金属資源
7	資源・エネルギー問題	3	<ul style="list-style-type: none"> ・化石燃料への依存と国家間の対立 ・化石燃料から再生可能エネルギーへ ・日本の資源・エネルギー問題
	工業の立地と工業地域の変容	7	<ul style="list-style-type: none"> ・工業の立地と工業地域 ・繊維・鉄鋼・石油化学 ・自動車・エレクトロニクス ・新しい技術と工業 ・グローバル化と工業地域の再編 ・工業の知識集約化 ・日本の工業とその変容

	第三次産業	3	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス経済化の進展と流通産業の発達 ・情報通信業とその集積 ・医療・福祉産業の課題
8	交通・通信	2	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の発達(1)(2)(3) ・情報通信技術の発達
9	貿易と経済連携	2	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の自由化と経済連携 ・現代貿易の課題
	観光	2	<ul style="list-style-type: none"> ・観光の発達と地理的展開 ・様々な観光
	人口	3	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口分布と人口増加 ・人口動態と人口ピラミッド ・人口移動の変遷と今日の姿
	人口問題	2	<ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の人口問題 ・先進国の人口問題
	村落・都市	3	<ul style="list-style-type: none"> ・村落の機能と形態 ・都市の機能と都市システム ・都市の内部構造と大都市圏
10	居住・都市問題	3	<ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の居住・都市問題 ・先進国の居住・都市問題 ・日本の居住・都市問題
	生活文化の地域性	3	<ul style="list-style-type: none"> ・文化と環境 ・世界の食生活 ・世界の居住・衣服
	民族・言語・宗教	2	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の民族と言語 ・世界の宗教
	民族問題	3	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の多様な民族問題 ・紛争と難民 ・民族問題をどう乗り越えるか
	現代の国家と領土問題	3	<ul style="list-style-type: none"> ・国家の領域と国境線 ・領土問題の要因と解決への取り組み ・グローバル化と「文化」
11	地域区分の意義	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分の意義 ・さまざまな地域区分の方法 ・地域の考察方法
	東アジア	6	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の改革開放と急速に進む工業化 ・中国の農業・農村の近代化と都市化 ・環境問題などの課題 ・経済成長により広がる中国の影響力 ・韓国の経済成長と地域構造 ・韓国の都市・農村の変化と生活文化

	東南アジア	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジアの多様な文化 ・ 東南アジアの地域性と農業 ・ ASEAN の政治と経済発展 ・ 国家間の格差などの課題
12	南アジア	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル化と南アジアの経済発展 ・ 大都市の形成と格差の問題 ・ インドの人口増加と農村の変化 ・ 南アジア世界の多様性と統一性
	西アジアと中央アジア	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交易の歴史と人々の生活 ・ 乾燥地に適応した生活文化と宗教 ・ 資源開発にみられる二つの地域の違い
	北アフリカとサハラ以南アフリカ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な文化の成り立ち ・ モノカルチャー経済克服の課題 ・ アフリカの発展と新たな課題
1	ヨーロッパ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヨーロッパ統合の流れ ・ ヨーロッパの農業とその変容 ・ ヨーロッパの産業とその変容 ・ EU の拡大と地域格差 ・ 揺らぐ「一つのヨーロッパ」
	ロシア	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な民族と宗教 ・ ポスト社会主義時代の暮らし ・ 周辺国と産業・資源をめぐる関係の変化
	アングロアメリカ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ アングロアメリカの農業 ・ 多民族社会がかかえる問題 ・ 世界最大のアングロアメリカ経済 ・ 先端産業の発展と鉱工業地域の変化 ・ 情報社会に移行する大都市圏
2	ラテンアメリカ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラテンアメリカの成り立ち ・ ラテンアメリカの産業の発展と経済成長 ・ 森林破壊などの問題
	オセアニア	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多文化共生の課題 ・ オセアニアの資源と産業 ・ オセアニアと他地域との結びつき
	北極・南極	1	
3	日本の地理的諸課題を読み解く	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の地域構造 ・ 日本の国土政策
	持続可能な国土増の探究	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題と仮説の設定 ・ 現実世界の課題を読み解こう ・ 調査テーマ（課題）の設定の仕方を考えよう

		<ul style="list-style-type: none">・仮説の設定の仕方を考えよう・自然・国土について収集したデータから考えよう・仮説の検証と考察・さらなる探究へ
--	--	--

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
日本史探究	普通科 3 年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 日本史探究（実教出版） <input type="checkbox"/> 資料集 最新日本史図表 2 0 2 4 （第一学習社） <input type="checkbox"/> ノート 日本史探究マイノート（実教出版）
------	---

科目の目標		
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や太奥の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 0 %	3 0 %	2 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・【まとめ (Try)】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿って答えられている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモとして残している</u> 。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【はじめの問い】や【作業 (Point)】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている</u> 。 ・教師から仲間との確認の指示があった場合は、 <u>仲間のサイン</u> を受けている。	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組む、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。 [自分なりの工夫] ・ノートについて、 <u>教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりする</u> など、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	日本文化のあけぼの ～旧石器時代→縄文時代→弥生時代	3	・日本列島最古の文化 ・縄文時代の社会と文化 ・弥生時代の社会と文化
	ヤマト政権の成立と古墳文化 ～古墳時代	4	・小国の分立と邪馬台国 ・古墳の出現とヤマト政権の成立 ・ヤマト政権の展開と統一の進展 ・古墳時代の生活と文化
5	律令国家の形成 ～飛鳥時代→「白鳳時代」→奈良時代	6	・古代国家の形成 ・飛鳥文化・白鳳文化 ・律令制度 ・奈良時代の政治 ・天平文化
	古代国家・社会の変容 ～平安時代（初期及び中期）	5	・律令体制再編期の政治と社会 ・摂関政治の成立と支配体制の転換

			・国風文化
6	荘園公領制の成立と院政 ～平安時代（末期）	4	<ul style="list-style-type: none"> ・荘園公領制の形成 ・院政の成立～院政期の社会 ・平氏の成長～平氏政権 ・院政期の文化
	中世の国家・社会の展開 ～鎌倉時代	5	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の成立と朝廷 ・中世に生きる人々 ・蒙古襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化
7	中世の国家・社会の変容 ～室町時代	6	<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝の動乱 ・室町幕府の政治と外交 ・室町社会の展開と応仁の乱 ・室町文化 ・戦国大名の分国経営
8	東アジア世界の変容と天下統一 ～織豊時代	3	<ul style="list-style-type: none"> ・織豊政権 ・天下統一の完成 ・近世成立期の文化
9	幕藩体制の成立と展開 ～江戸時代初期	8	<ul style="list-style-type: none"> ・幕藩体制の成立 ・貿易の統制と対外関係 ・近世社会のしくみ ・幕府政治の展開 ・経済の発展 ・元禄文化と学芸の発展
	近世の国家・社会の変容 ～江戸時代中期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・幕藩体制の動揺と幕政の改革 ・欧米列強の接近と天保の改革 ・近世文化の成熟と変容
10	開国から倒幕へ ～江戸時代末期	5	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米のアジア進出～日本の開国 ・安政の政局～薩長同盟と幕府 ・大政奉還と王政復古～戊辰戦争
	明治維新 ～明治時代	4	<ul style="list-style-type: none"> ・明治維新 ・文明開化
	近代国家の形成	6	<ul style="list-style-type: none"> ・立憲国家への道 ・議会政治の展開と日清・日露戦争 ・産業革命と社会の変化 ・近代文化の形成と展開
11	両大戦間の日本 ～大正時代	6	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦 ・政党政治の展開 ・市民文化の展開
	十五年戦争と日本	7	<ul style="list-style-type: none"> ・満州事変

	～昭和初期		<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中戦争 ・ アジア・太平洋戦争（太平洋戦争）
12	戦後日本の形成	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 占領と民主改革 ・ 独立と日米安保体制の形成 ・ 高度経済成長下の日本
	グローバル化のなかの現代日本	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「国際化」する経済大国 ・ 新たな世紀の日本へ
1	現代の日本の課題の探究	4	
2	家庭学習期間		
3	卒業		

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
世界史探究	普通科 3 年 A 類型	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 世界史探究（実教出版） <input type="checkbox"/> 資料集 最新世界史図説 タペストリー 二十三訂版（帝国書院） <input type="checkbox"/> 問題集 2025 実戦攻略 歴史総合, 世界史探究 大学入学共通テスト問題集（実教出版）
------	--

科目の目標		
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、ICTを活用しつつ諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、協働的な学びを通して歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】</p> <p>B 歴史的事象に関する用語を知っている。</p> <p>・重要語句や重要事項を答えたり、その内容を説明したりすることができる。</p> <p>A 歴史的事象を概念として理解することができる。</p> <p>・習ったことを一般化できる形に抽象化して整理したり説明することができる。</p> <hr/> <p>【技能】</p> <p>B 提示された資料から必要な情報を読み取ることができる。</p> <p>・提示された年表や地図その他の図表、史料などの資料から、必要な情報を読み取ることができる。</p> <p>A 適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。</p> <p>・年表や地図その他の図表、史料などから、適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。</p>	<p>【思考】</p> <p>B 習った歴史的事象を他の事柄にあてはめることができる。</p> <p>・抽象化した既習事項と別の歴史的事象との構造的な共通点を見出すことができる。</p> <p>A もとの事柄とあてはめた事柄とを比べることができる。</p> <p>・複数の事柄を、共通する構造で捉えて、さらなる共通点を推測したり時代や地域を含む様々な条件に起因する相違点などを挙げたりして整理することができる。</p> <hr/> <p>【判断】</p> <p>B 歴史的事象に関する判断基準を把握できている。</p> <p>・その事柄に関する課題は何か、その課題に対して誰がどのような考え方を持っているかについて整理することができる。</p> <p>A 歴史的事象について価値判断を行うことができる。</p> <p>・実際起きた出来事等が、誰にとってどのような意味があったのか、それぞれの立場から説明できる。</p> <hr/> <p>【表現】</p> <p>B 歴史的事象について自分の考えを述べることができる。</p> <p>・習った内容を比較したり価値判断を行ったりしたことをもとにして自分の考えを述べることができる。</p> <p>A 歴史的事象についての自分の考えを、適切な方法で表すことができる。</p> <p>・文章や年表、地図その他の図表などを用いて、他者に効果的に伝えることができる。</p>	<p>【自己調整学習・粘り強い取り組み（学習方法）】</p> <p>B 学習の振り返りを行うことができる。</p> <p>・自らの学び方を振り返り、改善しようとすることができる。</p> <p>A 振り返りをもとに、学び方を継続的に改善することができる。</p> <p>・自らの学び方を振り返り継続的に改善することができ、その成果が、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の成績にも表れている。</p> <hr/> <p>【自己調整学習・粘り強い取り組み（学習の深まり）】</p> <p>B 自分で問いを立てることができる。</p> <p>・疑問に感じた点やさらに深めたい部分などを自分で見つけ、問いを立てることができる。</p> <p>A 自分とのつながりや現代の諸問題を意識した問いを立てることができる。</p> <p>・歴史的事象と自分や現代の諸問題とのつながりに興味を向けることができ、それらを深めるための問いを立てることができる。</p>

学習計画			
月	単元	時 数	学習項目
4	諸地域の歴史的特質の形成	4	古代文明
		4	東アジアと中央ユーラシア
		2	南アジアと東南アジア
5		5	西アジアと地中海周辺
		3	西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成
6	諸地域世界の交流と再編	3	イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容
		4	中央ユーラシアと諸地域の交流・再編
		3	大交易時代
7		4	アジア諸地域の帝国
		3	近世ヨーロッパの形成と展開
8	諸地域の結合と変容	3	産業革命と大西洋革命
9		3	近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家
		7	地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗
10		3	第一次世界大戦と諸地域の変容
		4	第二次世界大戦と戦後の国際秩序
11	地球世界の課題	3	冷戦と現代世界
		4	世界経済の展開
12		5	科学技術の時代と知識基盤社会
		9	・紛争解決や共生 ・経済格差の是正や経済発展 ・科学技術の発展や文化の変容
1			
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学B 数学C	普通科A理類型3年	数学Ⅱ：1 数学Ⅲ：3 数学B：1 数学C：1	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 新編 数学Ⅱ／Ⅲ／B／C（数研出版） <input type="checkbox"/> 問題集 Study-Up ノート 数学Ⅱ／Ⅲ／B／C
------	--

科目の目標		
<p>○以下の分野について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。</p> <p>数学Ⅱ…<u>いろいろな式</u>，<u>図形と方程式</u>，<u>三角関数</u>，<u>指数関数と対数関数</u>，<u>微分法と積分法</u> 数学Ⅲ…<u>極限</u>，<u>微分法</u>，<u>積分法</u> 数学B…<u>数列</u>，<u>統計的な推測</u> 数学C…<u>ベクトル</u>，<u>平面上の曲線と複素数平面</u></p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各分野についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	<p>以下の力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力 ・関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力 ・関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力 ・数列や関数の値の変化に着目し，極限について考察したり，関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し，数学的に考察したりする力 ・いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力 ・離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力 	<p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力 ・日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力 ・大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力 ・図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力 	
--	--	--

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○観点別目標の達成や取組の状況において</p> <p>「十分満足できる」状況と判断される場合「A」（点数での目安：7割以上）</p> <p>「おおむね満足できる」状況と判断される場合「B」（点数での目安：3割以上7割未満）</p> <p>「努力を要する」状況と判断される場合「C」（点数での目安：3割未満）と評価する。</p>		
<p>○知識・技能の評価問題（主に計算問題）を理解している。</p> <p>[到達度チェックテスト]</p> <p>[定期考査]</p> <p>[授業時の解答状況等]</p>	<p>○思考力・判断力・表現力の評価問題（主に応用記述問題）を理解している。</p> <p>[到達度チェックテスト]</p> <p>[定期考査]</p> <p>[授業時の解答状況等]</p>	<p>○授業に臨む態度等（日々の授業時）</p> <p>○課題（宿題）等の取組・提出状況（プリント・ノート等）</p> <p>○努力度・理解度の自己評価（到達度チェックテスト）</p> <p>※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえたうえで評価する。（例：CCA という評価はほぼありえない。）</p>
定期考査の点数だけでなく、 <u>日々の授業の取り組み</u> を評価します。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	数学Ⅲ 第1章 関数	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分数関数 ・ 無理関数 ・ 逆関数と合成関数 ○到達度チェックテスト
5	数学Ⅲ 第2章 極限 第1節 数列の極限	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数列の極限 ・ 無限等比数列 ・ 無限級数 ○到達度チェックテスト
	第2節 関数の極限	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関数の極限（1） ・ 関数の極限（2） ・ 三角関数と極限 ・ 関数の連続性 ○到達度チェックテスト
	●1学期中間考査		
6	数学Ⅲ 第3章 微分法 第1節 導関数	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 微分係数と導関数 ・ 導関数の計算 ○到達度チェックテスト
	第2節 いろいろな関数の導関数	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな関数の導関数 ・ 第n次導関数 ・ 曲線の方程式と導関数 ○到達度チェックテスト
	数学Ⅲ 第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導関数の応用 ・ 平均値の定理 ・ 関数の値の変化 ・ 関数のグラフ ○到達度チェックテスト
	●1学期期末考査		
7	数学Ⅲ 第4章 微分法の応用 第2節 いろいろな応用	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 方程式，不等式への応用 ・ 速度と加速度 ・ 近似式 ○到達度チェックテスト

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
7	数学Ⅲ 第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分	10	<ul style="list-style-type: none"> ・不定積分とその基本性質 ・置換積分法と部分積分法 ・いろいろな関数の不定積分 ○到達度チェックテスト
8	数学Ⅲ 第5章 積分法とその応用 第2節 定積分	5	<ul style="list-style-type: none"> ・定積分とその基本性質 ・置換積分法と部分積分法 ・定積分のいろいろな問題 ○到達度チェックテスト
9	数学Ⅲ 第5章 積分法とその応用 第3節 積分法の応用	15	<ul style="list-style-type: none"> ・面積 ・体積 ・道のり ・曲線の長さ ○到達度チェックテスト
	問題演習	5	・数学Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ／B／Cの総復習
10	問題演習	20	・数学Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ／B／Cの総復習
11	問題演習	20	・数学Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ／B／Cの総復習
	●2学期期末考査		
12	問題演習	15	・数学Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ／B／Cの総復習
1	問題演習	5	・数学Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ／B／Cの総復習

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
化学	普通科・3年生（A 類型理系）	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 化学（実教出版） <input type="checkbox"/> セミナー化学基礎＋化学（第一学習社） <input type="checkbox"/> サイエンスビュー 化学総合資料（実教出版）
------	--

科目の目標		
「化学基礎」までの学習を踏まえて、化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けさせる	化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験 データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	化学的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・【まとめと練習】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・授業プリントなど説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している</u> 。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【探究の問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている</u> 。 ・教師から仲間との確認の指示があった場合は、 <u>仲間のサイン</u> を受けている。	B 評価の規準 [観察・実験] 様々な探究の過程を通して科学の方法を学び、化学的に探究する能力と態度を育てようとするものであり、化学に対する興味や関心も、しっかりとした目的意識をもって行う観察、実験によって一層高めることができる。 [自分なりの工夫] ・授業プリントに教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりする。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	気体の性質		気体
			気体の状態方程式
5	溶液の性質		溶解
			希薄溶液の性質
			コロイド
	固体の構造		金属の結晶構造
			イオン結晶の構造
			分子結晶と共有結合の結晶
6	化学反応と熱・光		反応とエンタルピー変化
			ヘスの法則
			光とエネルギー
	化学反応の速さ		反応の速さ
			反応速度を変える条件

7	化学平衡		可逆反応と化学平衡
			平衡の移動
	水溶液の化学平衡		電離平衡
			塩への水への平衡
8			
9	周期表と元素		周期表と元素
	非金属元素の単体と化合物		水素とその化合物
	典型金属元素の単体と化合物		貴ガス
	遷移元素の単体と化合物		酸素・ハロゲン・硫黄・窒素・リン・炭素・ケイ素その化合物
	金属イオンの分離と確認		典型金属元素・遷移元素の単体と化合物
10	有機化合物の特徴と構造		有機化合物の特徴
	炭化水素		有機化合物の構造式の決定
			飽和炭化水素
			不飽和炭化水素
11	アルコールの観覧化合物		アルコールとエーテル
	芳香族化合物		アルデヒドとケトン
			カルボン酸
			エステル・油脂・セッケン
			芳香族炭化水素
			フェノール類と芳香族カルボン酸
			芳香族アミンとアゾ化合物
			芳香族化合物に分離
12	天然高分子化合物		単糖類と二糖類
			多糖類
			アミノ酸
			タンパク質
	合成高分子化合物		合成繊維
			合成樹脂
			ゴム
1	問題演習		

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
物理	普通科 3 年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 物理（数研出版） <input type="checkbox"/> 物理研究ノート（博洋社） <input type="checkbox"/> セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）
------	---

科目の目標		
<p>物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>物理的の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p>	<p>観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p>	<p>物理的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 0 %	3 0 %	3 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 〔わかった・できた〕 ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、適切にメモに残している。 ・学習活動に真剣に取り組む、確認テスト等で振り返ることができている。	B 評価の規準 〔よく考え、意見を持ち、説明できた〕 ・学習や観察及び実験に仲間と協力して取り組み、自らの考えを記述している。 ・学習内容や観察及び実験の方法を正しく理解し、結果をまとめることができる。	B 評価の規準 〔粘り強さ〕 ・学習課題に自ら取り組み、仲間と協力して考え、結果をまとめることができる。教師のスタンプがある。 〔自分なりの工夫〕 ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1章 電場	2 2 4	①静電気力 ②電場 ③電位
5	第2章 電流	1 5 3	④物質と電場 ⑤コンデンサー ①オームの法則
6	第3章 電流と磁場	5 2 2 1	②直流電流 ③半導体 ①磁場 ②電流のつくる磁場
7		3 3	③電流が磁場から受ける力 ④ローレンツ力
8			
9	第4章 電磁誘導と電磁波	5 3 3	①電磁誘導の法則 ②自己誘導と相互誘導 ③交流の発生

10	第 1 章 電子と光	7 2 3	<div>4</div> 交流回路 <div>5</div> 電磁波 <div>1</div> 電子
11	第 2 章 原子と原子核	3 3 2 3	<div>2</div> 光の粒子性 <div>3</div> X線 <div>4</div> 粒子の波動性 <div>1</div> 原子の構造とエネルギー順位
12		1 3 3 2	<div>2</div> 原子核 <div>3</div> 放射線とその性質 <div>4</div> 核反応と核エネルギー <div>5</div> 素粒子
1	演習	10	
2	演習	10	
3			

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
生物	普通科 3 年 (A 類型・生物選択者)	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 高等学校生物（啓林館） <input type="checkbox"/> 問題集 センサー総合生物 生物基礎・生物（啓林館） <input type="checkbox"/> 資料集 改訂版 フォトサイエンス 生物図録（数研出版）
------	--

科目の目標		
生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を計りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育う。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養うことが重要である。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 〔わかった・できた〕 ・学習活動に真剣に取り組 み、確認テスト等で振り返 ることができる。 ・観察及び実験の方法を正し く理解し、結果をまとめるこ とができる。	B 評価の規準 〔よく考え、意見を持ち、説 明できた〕 ・学習内容に対し、仮説を立て、既習事項や実験結果等 と関連付けて考察すること ができる。 ・専門用語を的確に使用し、 順序良く端的に説明するこ とができる。	B 評価の規準 〔粘り強さ〕 ・学習課題に自ら取り組み、内容も学 習内容に沿っている。 〔自分なりの工夫〕 ・教師の説明をメモしたり、自分なり のまとめをしたりするなど、独自の工 夫及び記述がある。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に 迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主 に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時 数	学習項目
4	動物の行動	3 2 2	効果器 生得的行動 学習
5	植物の環境応答	4 8	植物の生殖と発生 発芽と成長
6	個体群と生物群集	3 2 3	個体群とその変動 種内関係 種間関係
7	生態系	4	生態系と物質生産
8		2	生態系と人間生活
9	「共通テスト演習」	2 10	生態系と人間生活 「共通テスト演習」
10	「共通テスト演習」	12	「共通テスト演習」
11	「共通テスト演習」	12	「共通テスト演習」
12	「共通テスト演習」	8	「共通テスト演習」
1	「共通テスト演習」	3	「共通テスト演習」

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
体育	3 年普通科・総合ビ ジネス科	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 0 %	2 0 %	3 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して技術の名称や実践、ルールやマナーを理解しようとしている。 ・課題解決法、練習法、試合法を理解しようとしている。 	B 評価の規準 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに毎時の反省を記入し、自己評価をしようとしている。 ・互いに助け合い、教えあい、高め合おうとしている。 ・役割を積極的に引き受け事故の責任を果たそうとしている。 	B 評価の規準 <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動の声出し、活動時の周囲への声掛け、準備・片付けを積極的に行おうとしている。 ・活動の目的を理解し、実践しようとしている。 ・他者と協力して周囲に配慮をしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。 ・授業に積極的に参加しようとしている。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテスト、体育理論で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ダンス 体づくり運動	10	現代的なリズムのダンス 体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
5	球技（選択①）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
6 7	球技（選択①）	12	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
	体育理論	2	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果 スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境

8	球技（選択②）	2	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
9	球技（選択 2）	8	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
10	球技（選択③）	8	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
11	陸上競技（長距離走）	8	20分間走・ロード走
12	陸上競技		20分間走・ロード走
1	ダンス 球技	6	現代的なリズムのダンス <input type="radio"/> ゴール型 <input type="radio"/> ネット型 <input type="radio"/> ベースボール型

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
英語 コミュニケーションⅢ	普通科・3 年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> Power On English CommunicationⅢ <input type="checkbox"/> Bricks2 <input type="checkbox"/> Vintage
------	--

科目の目標		
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常的・社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。	多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数のまとまりのある文で論理的に詳しく話して伝えることができる。	題材について必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、題材に関わる情報や自分の考えを詳しく話したり書いたりして伝えようとしている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 0 %	2 0 %	3 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・文法の意味や用法を理解している ・論理展開のディスコースマーカ―の意味や働きを理解している ・事実と意見の区別を理解している ・段落構成を理解している	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち説明できた] ・話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながらテーマについて情報や自分の考えを詳しく話したり書いたりする。	B 評価の規準 [着実に取り組む姿勢] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表が出来る。 ・板書だけでなく教師の説明を聞き、自分なりにまとめるなど、独自の記述が3カ所以上ある。 ※寝ている人、周囲に迷惑をかける行為（私語等）をする人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	Lesson1 Library of the Future	1	・新出単語の確認
		2	・概要理解と詳細理解
		2	・音読、まとめ、表現活動
5	Lesson2 History Maker Otani Shohei	1	・新出単語の確認
		2	・概要理解と詳細理解
6	Lesson2 History Maker Otani Shohei	2	・音読、まとめ、表現活動
	Lesson3 Zoo Dentists	1	・新出単語の確認
	Lesson3 Zoo Dentists	2	・概要理解と詳細理解
7	Lesson3 Zoo Dentists	2	・音読、まとめ、表現活動
	Lesson 1～lesson 3 の復習	1	・サマリーや音読等の言語活動
8			
9	Lesson4 Nature Photographer in Alaska	1	・新出単語の確認

	Lesson4 Nature Photographer in Alaska	2	・概要理解と詳細理解
10	Lesson4 Nature Photographer in Alaska	2	・音読、まとめ、表現活動
	Lesson5 A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think	1	・新出単語の確認
11	Lesson5 A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think	2	・概要理解と詳細理解
	Lesson5 A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think	2	・音読、まとめ、表現活動
12	大学入試共通テスト対策	10	・演習と解説
1	大学入試共通テスト対策	4	・演習と解説
	大学個別試験対策		・添削指導
	家庭学習期間		
2	大学個別試験対策		・演習と解説
3			

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
論理・表現Ⅲ	普通科・3 学年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 EARTHRISE English Logic and Expression III Standard (数研出版) EARTHRISE English Logic and Expression III Standard ワークブック
------	---

科目の目標		
「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○外国語の 4 技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）のうち「話すこと」「書くこと」について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けるようにする。 ○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解する力を養う。	○場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりする力を養う。 ○聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現することができるようにする。	○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現することができるようにする。 ○言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 0 %	2 0 %	3 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 「外国語理解の能力」 ・外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。 ・外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。	B 評価の規準 「外国語表現の能力」 ・外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	B 評価の規準 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」 ・コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	Lesson 1 New Year's celebration	4	「意見・希望・欲求を述べる」表現
5	Lesson 2 Working and studying online	4	「賛成・反対を述べる」表現
6	Lesson 3 Recreation	4	「勧誘する・招待する」「期待する」表現
6 7	Lesson 4 Open campus	4	「計画・意図を述べる」表現
8 9	Lesson 5 Places to buy lunch	4	「提案・助言を行う」表現
9	Lesson 6 A helping hand	4	「程度・譲歩を述べる」表現
10	Lesson 7 Online shopping	4	「依頼・要請を行う」表現
10 11	Lesson 8 Sharing information	4	「許可を求める」表現
12	Lesson 9 Fixing dates	4	「謝罪する・謝罪に応じる」表現
1	Lesson 10 Work experience programs	4	「感謝・喜びを述べる」表現

